

2014年度自己点検・評価報告書(シート)

【目標の進捗状況(達成度)評価・報告】(最終年度)

《大学》

担当(記述)部局は、 ☆印の箇所を記入してください。

I. 評価項目・要素と担当部局

本報告書(シート)の自己点検・評価項目・要素と担当部局は次のとおりである。

対象部局	文学部
大項目	6 教育内容・方法・成果
中項目	6.2 教育課程・教育内容
小項目	6.2.1 教育課程の編成・実施方針に基づき、授業科目を適切に開設し、教育課程を体系的に編成しているか。
要素	必要な授業科目の開設状況 順次性のある授業科目の体系的配置 専門教育・教養教育の位置づけ(学部) コースワークとリサーチワークのバランス(院)
小項目	6.2.2 教育課程の編成・実施方針に基づき、各課程に相応しい教育内容を提供しているか。
要素	学士課程教育に相応しい教育内容の提供(学部) 初年次教育・高大連携に配慮した教育内容(学部) 専門分野の高度化に対応した教育内容の提供(院) 理論と実務との架橋を図る教育内容の提供(専院)

II. 目標の進捗状況(達成度)評価と報告【2014.4.30現在】

《進捗状況(達成度)評価》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況(達成度)の自己評価を行っている。進捗状況(達成度)評価は、目標の2014年4月30日現在における進捗状況(達成度)の評価(2013年度1年間の活動評価ではなく、2014年4月30日現在で目標がどこまで進んだかの評価)であり、A、B、C、Dの4段階で行ったものである。A、B、C、D評価の基準は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
 B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
 C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
 D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗状況(達成度)評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. 教育目標とディプロマ・ポリシーに基づき現行カリキュラムの個々の開設科目の内容を具体的に精査する。	→「文学部教育目標」、「文学部ディプロマ・ポリシー」(6-1に基づく)	C	C	C	B	B
2. 専門科目と教養科目の関連性を再定義し、あわせて履修単位制限の厳格化を実施する。	→「新基本構想(教育)A-2」、「(教育)A-7」、「文学部開講科目一覧」、「文学部内規」	C	C	B	B	B
3. 学部の開講授業総数を見直し、増加が必要な科目に関しては可能な限り対応する。	→「文学部および他学部の開講授業総数の推移」、「文学部授業受講者数推移」	C	C	C	B	B
4. 学部における初年時教育内容の明確化と全学提供初年次教育との連携を検討するため委員会を設置し具体的検討を行う。	→「新基本構想(教育)A-2」、「人文演習開設数・受講者数」、「人文演習担当教員アンケート」	C	B	B	B	B
5. 『文学部履修心得』をより利用しやすい形へと改善する。	→「文学部履修心得」、「文学部GPA分布」、「GPAと就職の相関関係」	B	B	B	B	A

☆

2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	2009	2010	2011	2012	2013
	→					
	→					

《進捗状況(達成度)報告》 担当(記述)部局は「指標」に基づいた報告をしてください。

上記で自己評価した目標の進捗状況(達成度)について、次のとおり説明・報告する。

目標1	B	Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 学部として、教育目標とディプロマ・ポリシーに基づき、個々の開講科目の内容を精査した。	☆
		Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 精査を行い、一部科目の名称や履修基準年度の変更を検討したが、混乱を避けるため変更は見送った。	☆
		Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 変更の必要があると考えている点については、旧課程の学生(2008年度以前入学生)が卒業した後、変更する予定である。	☆
		その他	
			☆
目標2	B	Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 学部として、専門科目と共通科目の構成を見直し、履修単位制限の厳格化を検討した。	☆
		Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 専門科目と共通科目とのバランスは保たれているが、総合科目のテーマについては見直す必要がある。一方、履修単位数 の上限を各学年50単位以下とするキャップ制を導入した。	☆
		Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 総合科目のテーマを見直す。	☆
		その他	
			☆
目標3	B	Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか カリキュラム委員会を中心に、開講授業総数を見直し、増加が必要なものについて対応をはかった。	☆
		Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 2012年度には実習科目である心理学実験実習Ⅰ・Ⅱおよび心理学実習Aの開講数を増やした。2014年度にはスペイン 語Ⅰの再履修クラスを開講した。	☆
		Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 実習科目の開講数については、引き続き検討する。言語教育科目の開講数については、学生の履修状況に応じ、毎年見直 す。	☆
		その他	
			☆
目標4	B	Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 学部の初年時教育として重視している人文演習について、それを担当する教員による検討を行った。	☆
		Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 大学における学習・研究への導入として、人文演習で何を教えるべきかということを検討する中で、各担当者の取り組みを共 有し、学びあうことができた。しかし学部における初年時教育と全学提供初年時教育との連携検討は行われなかった。	☆
		Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 学部の総合科目のテーマの見直しの中で、全学提供初年時教育との連携を検討する。	☆
		その他	
			☆

目標5	A	Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 学部の教務担当者を中心に、文学部履修心得を簡潔でわかりやすいものに改編することに取り組んだ。	☆
		Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 2012年度版では総頁数332頁であったが、段階的に100頁以上削減し、わかりやすいものにした。	☆
		Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 今後も、よりわかりやすいものにするため、適宜改編を行う。	☆
		その他	☆
備考			☆